夕刊 日刊
磐城時報

福島縣石城郡平町紺屋町十四 編輯兼發行人 岡田弘成
印刷人 福島縣石城郡平町紺屋町十四
印刷所 [illegible]活版所
福島縣石城郡平町紺屋町十五 發行所 磐城時報社
一部金貳錢 一ヶ月金參拾錢
廣告料一行十四字詰金五十錢
△日刊(日曜、祭日)休刊

後任平町長は 結局伏見氏再選か
青沼派の勢力も絶大 注目さるゝ野崎派の態度

平町長伏見彦衛氏の任期は來る二月二十四日で滿期となるので改選が行はれる筈であるため近頃ではその後任問題がやかましく論議されてゐる。後任町長として話題に上つてゐるのは現在の處現町長伏見氏の再選說、町議青沼鋒太郎氏を推さんとする說、及び元石城郡長水野虎三郎氏を拉し來らんとする說と、樣樣に分れてゐるが、水野氏は現在の磐城炭礦事務部長を止めてうるさい平町政に携はらんとする勇氣のない事は明らかであるから水野氏を推さんとする說は實現の可能性なきものと見る可く、結局後任町長の候補者は伏見町長と青沼町議の兩派に分れてゐる現狀である。伏見町長の再選に努力してゐるのは井上茂作氏の一派であつて既に十名內外の共鳴者あり、青沼氏を推さんとするのは森本盛一氏等の中立組で、之亦十名內外の贊成者があり、兩者共勢力相伯中の有樣で、伏見氏に決するか或は青沼氏が勝利を占めて後任町長に當選するかは一に野崎町議等一派の所謂民政黨系の人々の向背によつて決せらるゝわけである野崎氏等の意嚮を想像するに、現伏見町長は自治行政に精通してゐるのと、又私利私慾を離れ町治に盡瘁してゐるといふ点で伏見町長を信用してゐる事は明かな事であるが、井上茂作氏に對する反感から或は青沼氏說に走るではないかと見る人々も少くない。然し野崎氏等は青沼氏に對するよりも、より多くの信用を伏見氏に有してゐると傳へられてゐるし、伏見氏が全く平町の公僕として働らいて來た過去四年間の功績も理解してゐるから、僅か一期で伏見氏を蹴飛ばすに忍びないといふ氣持ちを持つてゐるとすれば此際反目してゐると見られてゐる井上氏等と相共に伏見氏を推す位の雅量は持つてゐる人であるから結局に伏見氏は多數を以て再選を見るに至るであらうと見られてゐる

平町の市制準備
町內區劃及び道路調査

平町は既に人口三萬に垂んとし殊に本年度中には平驛、同郵便局、警察署、町役場、第三小學校の新改築が行はれ其他諸般の設備が整ふ事となり尚ほ同驛の乘降人員の多きこと縣下第一位で諸物價の集散繁增は優に市制を施くに遜色なき迄に至つたので愈々町當局では市制施行の肚をきめ之れが準備の爲め過般來より專屬の吏員二名をして秘密裡に目下區劃及び道路の調査測量を開始したが南町裏及び鐵道以北城山等將來發展の可能性ある方部には新道路の敷設計劃を建てゝゐるが城山及び町內の一部道路中には漸次住宅に浸入されてゐる事實を發見したが更に精密な調査を重ね之れが對策を講ずる筈だが斯くして市制の實施も近きにあり町當局では急いで居る。

小名濱港 浚渫工事

石城郡小名濱港は降雨每に流砂で埋まり海底がだん〳〵淺くなるので縣が莫大な費用を投じやうやく完成した築港も大型漁船には遂に用を爲さず小型漁船も岸壁まで近寄れないので已むなく港外に碇泊し魚類を小船で運搬するみじめな狀態にあるため縣當局は非常に憂慮し海底の浚渫に銳意努力してゐるが如何せん流砂は逐年その量を增す觀があるので縣では昨年十月以來浚渫機を同港內に据ゑつけ工事に着手してゐるが捗々しく工事が運ばないので今月初旬から大型最新式の浚渫機二臺を增し工事を急いでゐる、右について某町議は語る。

小名濱港の浚渫工事は如何に縣が費用を投じても無駄なことである、流砂は降雨によるばかりでないことがわかつたから流砂を未然に防止することは商港の實現による外術はない。

許可されるらしい
平町の地下採堀

古河、磐城兩炭礦の平町地下採堀出願につき仙臺鑛山監督局では採堀に同意するや否やを平町に諮問したので平町では極力反對しその後鑛山局より池知技師一行が來平して區劃調査を行つたがこの調査內容は極秘に附されてあり容易に窺知し得ぬが某方面に達した情報によると鑛山局では地下採堀の場合充塡法を講じ絕對に憂ひを除くなれば何等差支へない故に採堀の條件次第で許可する意嚮である由を聞き傳へた平町は三萬町民の反對を斥けて許可するならば身命を賭しても反對すると意氣込んでゐるから或は大爾問題以上の大問題が持ち上るではないかと噂されてゐる。

片倉製糸 四月から操業

平町片倉磐城製糸會社は昨年來から工場敷地の地均し工事中の處今回終了したので本月初旬中に工場の建設に着手し豫定通り本年春蘭から取引を開始し四月頃から操業を開始する豫定である。

少年、少女の求職者 八十九名に達す
三越、松坂屋の店員が 平町に來て採用試驗

平町職業紹介所では既報の如く目下相馬、双葉、石城郡下及び田村郡の一部小學校と連絡を保ち盛んに少年職業紹介に努めてゐるが、各校から昨日まで就職の希望を申出たものが八十九名の多きに上り昨年より二十六名の增加で尚ほ卒業期までには相當の增加あるものと觀られてゐるが求人は遠く東京、神戶、橫濱、桐生、福島方面から續々と申し込みがあり東京方面は三越白木屋、松坂屋などが主なるもので三越へは既に八名の希望者があり三越、松坂屋の兩店からは六日店員が出張し町役場において採用試驗をなす筈である。而して石城郡下現在の求職申し込みは九校であるが平第二小學校からは電話事務員、看護婦、給仕、女中などの希望があり好間內鄉の兩炭礦地及相馬郡中村校からは多數の職工希望者がある

△植田校增築 石城郡植田町小學校增築工事は舊臘植田職工組合において落札材料運搬その他の準備中であつたが漸くこの程起工式を擧げ新學期までに竣工の豫定であると。

△貧者へ白米惠與 植田町石城郡共濟委員長瀨米次氏は舊年末に際し窮細民中悲慘な家庭に贈るべく植田署內人事相談所へ白米一俵の寄附を申出た

△農事講演會 田人村青年團主催御大典紀念農事講演會は三月二日から一週間同村各部落で開會するが講師は神尾技師である。

子鍬倉神社の神体 近く新殿に奉遷
五月例祭に遷宮式

平町縣社子鍬倉神社は總工費八萬余圓を投じ社殿改築中であつたが此の程大体の竣工を見たので同町八坂神社に遷座してゐる神体は近日中に新殿に奉遷する筈であるが遷宮式は五月の例祭に於て盛大に行ふと。

△錦村信組計劃 石城郡錦村では過般の御大典の記念として役場が中心となり同村を網羅した販賣購買利用を兼ねた信用組合を組織すべく村議、區長、實行組合長、青年團幹部等共力して加入者募集中なるが、深刻な農村不振に豫定の進行を見ず各員大努力の結果此程漸く七百口(一口卅圓)の豫定中六百七十口二百廿六人の加入を見るに至つたので二月十一日の紀元節をトし創立總會を開く事となつた、尚ほ最初の間は準備その他の都合で販賣購買を主眼とせず專ら肥料資金として低利に貸付組合員の便宜を圖り漸次擴大し將來は農業倉庫をも設置する計劃であると。

七丁目の賊
四百圓を盗む

三日午後三時頃平町七丁目江尻榮次方留守宅に盗賊忍び入り現金四百十圓を盗み去つた者あり平署で犯人嚴探中である。

菊田實業校
生徒募集

植田町、錦村、山田村一町二ケ村で創立した植田町菊田實業補習學校は昨年四月授業開始以來入學者も日に增し增加してゐるが來る新學期からの計劃について去る二日同校內に關係者會合植田町長代理小野忠衛、錦村長金成通、山田村長安島重三郎、植田校長篠原保治、錦校長荒井一二、山田校長折笠鬼子太郎、菊田校長吉田正慶各氏出席協議の結果新學期から商業課を加へ本科男子百名、女子若干名、裁縫專修科五十名、同研究科若干名を募集する事になつた。

江名町が縣下第一
昨年の鰹漁

縣下各濱に於ける昭和三年度中の鰹漁成績は左の如く江名濱が第一位である。

組合名	船名	漁獲高
江名濱	二四	五〇六・四八四円
小名濱	一	六・六七二
豊間	二	三七・〇五五
四倉	一七	二一九・四二〇
久之濱	一一	三二・六九〇
請戸	一	一・五〇〇

平・夏井線
縣道に編入

平町月見橋より石城郡飯野村北白土を經て大字管波字宮前鎭座縣社國魂神社に通ずる道路は今回內務省から認可の指令あり愈よ縣道に編入される事になつた由來前記國魂神社の所在地は草野村より六十枚を經て夏井村荒田の目より同村藤間及高久村を經由し豐間、江名に通ずる縣道草野、江名線中の夏井村荒田の目地先より分岐すれば僅々數町を出でずして完全に縣道と連繫する事が出來るので從來その筋では今回縣道へ編入されたる平町起点の道路はこれを編入する必要がないといふ見解に基きその銓衡に漏れてゐたものであるが從來の縣道たる草野、江名線は途中の縣道としてあるまじき六十枚橋の難所あつて一朝降雨出水等の場合には假橋の流失破壞により幣帛供進使の參向不可能から延いて祭事を執行出來ぬ場合あるべきを想像せねばならぬばかりでなく同社の參拜者は地勢上草野、江名線によるもの至つて少く殆んど擧げて悉く平町よりするものが多いので一般は縣道編入を喜んでゐる。

入山炭礦で
娛樂場設置

石城郡湯本町入山炭礦では同町八仙にある鑛業事務所を同坑第五坑附近の廣場に新築移轉し舊事務所を從業員の娛樂場とする計劃で總工費三萬余圓を投じ新事務所の建築に着手したがこの突然の事務所移轉の事情は、晝夜の別なく一日數百人の從業員が働いてゐる第五坑と事務所とがあまりに離れてゐるため指揮監督乃至は執務上に不便を感じてゐるためだといふ、なほ移轉派の娛樂場設立については從業員側から非常に喜こばれてゐる

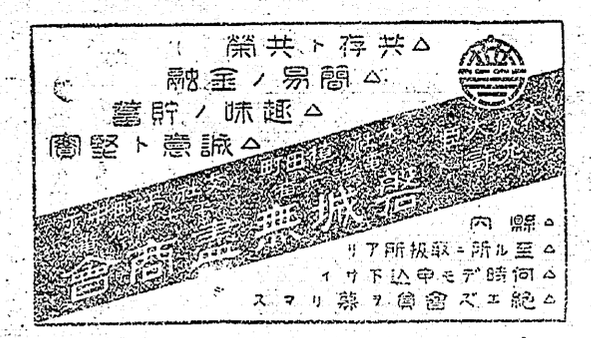
痔の高級內服藥
「ダイサン錠」
平五山野邊藥局

石城養蠶同業組合總會

石城郡養蠶同業組合總會は五日午前十時から平町元石城郡役所に關き左の諸件を協議したが昭和四年度豫算は七千三百三十三圓である。

▼協議事項

第一號　昭和四年度組合經費賦課徵收方法の件
第二號　昭和四年度石城郡養蠶同業組合經費豫算の件
第三號　費目流用の件
第四號　一時借入金承認の件
第五號　歲計現金預入銀行指定の件
第六號　寄附金採納の件
第七號　石城郡養蠶同業組合役員改選の件
報告第一號　昭和二年度石城郡養蠶同業組合經費決算並業務成績報告の件



鳥季節御料理
よせなべ類
天丼
仕出しは迅速配達致します
平町南町平館隣り
鰻蒲燒　魚榮
電話四二四番

△共存ト共榮
△簡易ノ金融
△趣味ノ貯蓄
△誠意ト堅實
磐城無盡商會
△縣內
△至ル所ニ取扱所アリ
△何時デモ申込下サイ
△絶エズ會員ヲ募リマス

平町紺屋町
吉田眼科醫院
電話六八番

聯合福引大賣出し（景品山の如し）
二丁目
舊十二月二十五日より二十九日迄
新二月四日より八日迄
五日間

貨物自動車
運轉手募集
▲甲種若くはシボレー號乙種免許證所有者（成る可く妻帶者）を望む
▲希望者は小名濱町小名濱水產株式會社（電話四十三番）に申込下さい
小名濱水產株式會社

田町睦會聯合
歲末福引大賣出し
新二月一日より七日間
お買上金高壹圓毎に福引券一枚進呈
景品種目
特等　別製桐簞笥
一等　桐簞笥
二等（九升樽）醬油
三等　メリヤスシヤツ
四等　桐下駄
五等以下七等迄實用品が澤山ございますゼヒお買上げを
引換場所　福住旅館

電話買受渡し
委細は御來談あれ
平町田町（電話四五番）
駒場株式店

舊十二月廿一日（一月卅一日）ヨリ
舊十二月廿八日（二月七日）マデ
八日間
四丁目聯合
福引景品付大賣出し
御買上一圓毎ニ福引券一枚呈上
景品引換場所　和泉屋旅館
景品引換時間　毎日午前九時ゟ午後五時迄
景品種目　桐簞笥、反物其他山の如し

磐城共濟病院組織
內科　小兒科（院長毎日診療）
院長　醫學博士　難波睦
副院長　醫學士　五十嵐雄二
內科部長　醫學士　中西林藏
外科　內臟外科、整形外科、レントゲン科
外科部長　醫學士　氏家憲介
毎日曜手術　醫學博士　鈴木退輔
產婦人科　女子泌尿科、レントゲン科
產婦人科部長　醫學士　五十嵐雄二
顧問　醫學博士　川添正道
X光線科
主任　醫學博士　難波睦
本院醫事法制囑託　法學士　岡蕃
本院主事　賀澤忠治
◎御大典記念事業トシテ
一衛生試驗所（共濟病院內）十一月一日ヨリ開始
一病氣相談所（共濟病院內）十二月一日ヨリ開始
一救療所（共濟病院內）十二月一日ヨリ開始
平町磐城
電話六四一番
共濟病院
◎入院自炊ノ便アリ　◎看護婦見習募集

日掛金貸付仲介開始
但し確實なる連帶借用の方に限る
合資會社　平町三丁目
常磐興信所